

5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 飼料作物の 収穫</p>	<p>(今月の作業のポイント) ○飼料作物の収穫 ○ツマジロクサヨトウの対策</p> <p>8月は飼料作物の収穫時期であるが、台風の接近数や上陸数が年間で一番多い月でもある。台風は不規則な経路をとることが多いため、台風情報に注意する。また、強風により飼料作物が倒伏すると収穫時に泥が混入し、サイレージの品質が低下する。そのため、風雨の影響が予測される場合には飼料作物を早めに収穫する。</p> <p>なお、この時期の収穫作業は熱中症予防に留意し、作業時は帽子の着用や通気性の良い服装を心がけるとともに、こまめな休憩と水分補給を行う。</p> <p>ア トウモロコシ</p> <p>(ア) 飼料用トウモロコシの収穫適期の判定方法</p> <p>サイレージの乳酸発酵に必要な水分含量は65～70%であり、糖含量が高い黄熟期を目安に収穫する。</p> <p>黄熟期の判定は、雌穂中央部を折り、粒の硬い部分と柔らかい部分の境界（ミルクライン、写真1の赤い点線）の位置で判定する。</p> <p>硬化した黄色い部分が全体の30%程度であれば糊熟期段階であり、40～50%まで達していれば黄熟期である（写真1）。刈遅れは収量低下や消化性の低下（栄養価減少）につながるため、ミルクラインが40%に達した時に収穫を開始し、50%になる頃までには終わるようにする。</p> <p>(イ) 飼料用トウモロコシサイレージの収穫調製方法</p> <p>切断長の目安を1cm程度とすることで、サイレージ密度が高まり発酵品質が向上する。</p> <p>イ ソルガム</p> <p>収穫適期は、糖含量が高い乳熟期～糊熟期（おおむね出穂</p>



写真1 収穫適期の雌穂断面（ミルクラインの位置は約40%）

項 目	作 業 内 容
<p>(2) ツマジロクサヨトウの対策</p>	<p>後2～3週間)、トウモロコシと混播(写真2)した場合は、トウモロコシの黄熟期が適期となる。刈取りは、ソルガムの再生を促すため、地上10～15 cmを目安に高刈りする。収穫後は、チッ素・カリを10 a 当たり各10 kg施肥し、再生芽が出始めた頃に各5 kg程度追肥する。</p>  <p>写真2 ソルガムとトウモロコシの混播</p> <p>ツマジロクサヨトウの幼虫は、トウモロコシやソルガムの葉等を食害する。県内では令和元年(2019年)に初めて確認され、被害がみられている。特に、二期作目の飼料用トウモロコシの7～8葉期に大きな被害が発生している。被害低減には、早期発見、早期防除が重要である。幼虫は、トウモロコシの中心部(生長中の葉が巻いている芯の部分)に潜り加害するため、定期的な見回りで早期発見に努める。疑わしい虫を発見したら、登録農薬で早急に防除する。</p> <p>農薬の使用にあたっては、用法・用量を遵守し周辺作物への飛散(ドリフト)に注意する。新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株上部までしっかりと散布する。</p> <p>なお、老齢幼虫になると農薬の効果が低下するため、可能な限り若齢幼虫のうちに防除する。また、収穫できそうであれば農薬は使用せず、ただちに収穫・調製する。刈取り後は、地表に落ちた幼虫や土中のさなぎを駆除するために、すみやかに耕うんする。</p> <p>【ツマジロクサヨトウ登録農薬】(令和3年3月31日現在)</p> <p>ア 飼料用トウモロコシ(2剤) (ア) BT水和剤(19899、22653、22654、23884) (イ) カルタップ水和剤</p> <p>イ 飼料用ソルガム(1剤) アセフェート水和剤</p>  <p>写真3 トウモロコシを食害集のツマジロクサヨトウ幼虫</p>

(作成 畜産研究センター)